

小川BSスマートIC(仮称)とアクセス道路の整備事業の状況について

町では、宇城市との共同事業により、スマートインターチェンジ(以降「スマートIC」と表記します。)を高塚地区にある高速道路の小川BS(バスストップ)付近に設置する事業を進めています。現在の事業の進捗状況などについて説明します。

【アクセス道路とスマートIC接続道路の整備事業費について】

○アクセス道路・スマートIC接続道路部の事業費

全体事業費(宇城市分含む) 20.7億円
(内訳 アクセス道路:14.9億円、橋梁:4.6億円、スマートIC接続道路:1.2億円)

○財源と負担

アクセス道路事業費20.7億円の財源として、国の交付金や合併特例債を活用します。財源の内訳は、次のとおりです。

国交付金…12.9億円、合併特例債…7.5億円、一般財源…0.4億円

ただし、合併特例債は、借金ですので元金・利子の合計は8.1億円になります。しかし、元利償還金の70%の5.7億円が地方交付税に算入されますので、借金返済に必要な地元の実質的な負担は、2.4億円(借入条件によって変動があります)となります。

先に示した整備事業にかかる一般財源の0.4億円と、この2.4億円を合わせた2.8億円が宇城市と氷川町で実質負担する

額となります。

この2.8億円を氷川町4:宇城市6(氷川町1.1億円:宇城市1.7億円)となるように事業費を負担することになります。

【スマートICおよびアクセス道路整備事業の進捗と今後のスケジュール】

①スマートIC整備について

高速道路からETC施設(ETC専用料金所)までの整備は、西日本高速道路(株)が行います。現在、西日本高速道路(株)による用地測量などが完了し、事業用地の一部買収が進んでいます。H24年度より高速道路東側から工事を進めていく予定です。

②アクセス道路整備について

◆これまでに、地元説明会を実施しながら、次の作業を行いました。

- ①計画路線の測量・設計。
- ②用地測量(事業用地の確定に必要な測量)。
- ③用地買収費や建物・立木等補償費の算定調査。
- ④事業用地の不動産鑑定。

◆H24年度からの事業予定

- ①用地買収、建物・立木等補償(24年度中に完了予定)。
- ②文化財調査
- ③橋梁工事(24年度～)
- ④道路工事(25年度～)

